

令和3年度第1回学校評議員会記録

1 日時 令和3年6月18日(金) 10:30~11:30

2 場所 本校南講義室

3 出席者 学校評議員

井上 孝之 小林 智 高村 光輝 以上3名

本校教職員

小原 由紀(校長) 佐々木 信明(副校長)
八重樫 寛昭(事務長) 坂牛 祐司(教務主任)
平野 利浩(生徒指導主事) 田代 徹(進路指導主事)
齋藤 徳夫(保健厚生主事) 小澤 茂登子(図書視聴覚主任)
菊池 保貴(総務主任) 川村 興司(総務担当)

以上10名

4 内容

評議員会に先立ち、10:00~10:30に授業及び施設の見学を実施

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 校長挨拶並びに学校経営計画説明
- (4) 出席者自己紹介
- (5) 学校概況説明・質疑応答等

最初に各担当から説明、その後質問・意見をいただいた。

①生徒一人ひとりに応じた授業改善を図り、主体的に学ぶ力を育む

〈学校評議員〉

- ・達成指標に「弱点を克服する学習や発展的な学習に自ら取り組んでいる生徒 49%」とあるが、自分に必要なものは何かを自ら考えて実行できる生徒の割合はどれくらいか。

→〈学校〉

- ・「いわて県民計画」にならって達成指標を設定したが、本校では2学年基礎力確認調査の結果5割弱である。生徒は課題提出に重点を置いているが、与えられたものベースではなく、主体的、探究的な学習を支援していく。
- ・学習で困っている生徒への支援はどのように行っているか。

→〈学校〉

- ・結果(解答)をすぐに求めようとする傾向があるので、様々な物事のとらえ方を指導し、解答を安易に与えずに導く。日常の授業で意識付けを行っている。
- 〈学校評議員〉
- ・課題をどのようにして解決するか。関心事を見つけてあげるサポートをすることが個人の進路に繋がる。大学で学ぶための基礎基本を身につける、ポートフォリオを作成するなどの指導をすることによって個性が育つ。
 - ・ICTの活用については、なじむ科目となじまない科目があると思う。なじむ科目についてはどんどん推進してほしい。

〈学校評議員〉

- ・ICTの活用により理解度が上がることが期待できると思う。習熟度とICTとの関連はどうか。

→〈学校〉

- ・今のところは客観的なデータはまだないが、生徒への興味付けや意識付けに有効だと考えている。

- ・生徒が「深く学ぶ」という点では、ICTを活用しない、という選択があってもよい。

②豊かな感性、人間性を育み、社会性を養う

〈学校評議員〉

- ・時間差登校とはどのようなものか。

→ 〈学校〉

- ・各学年5分間ずらして登校時刻を設定。通学路の混雑回避に加え、狭い階段での危険防止、さらに遅刻防止も目的としている。
- ・各クラスへの新聞を配付しての活用に関して、どの新聞を取っているか。高校生が社会に関心を持つ環境づくりに新聞はとてもよいと思う。

→ 〈学校〉

- ・全国紙を複数購読。ローテーションで様々な新聞を読めるようにしている。

〈学校評議員〉

- ・生徒に社会に対する選択肢を増やしてあげる必要がある。そのために図書館の利用が有効だと思うので、掲示板等を活用し、生徒が図書館に向かうように工夫してほしい。

③キャリア教育を推進し、進路実現を図る

〈学校評議員〉

- ・入試は団体戦と言われる。支え合う、教え合う態度を養い、生徒に楽しい高校生活を送らせてほしい。

④心身ともに健康で自他を尊重する生徒を育み、いじめを防止する

〈学校評議員〉

- ・ソーシャルスキルトレーニングは必要か。心理療法の意味なので言葉を変えた方がよい。

→ 〈学校〉

- ・資料には、「集団づくり」「コミュニケーション」「グループエンカウンター」等の意味合いで載せている。心理療法的な意味合いではない。今後、言葉の使い方に注意する。

⑤「チーム盛北」として家庭、地域と連携した教育活動を推進する

〈学校評議員〉

- ・働き方改革はなかなか答えが出ない。「数」を増やす必要があると思う。

(6) 意見聴取

- ・授業を見学し、生徒と教員の距離感が良いと感じた。また、ICTの推進など学校現場の状況の変化を見ることができて良かった。
- ・ICTの促進に伴い、新しい技術への対応で悩む教員への支援が必要だと思う。
- ・資料が見やすく、言葉の使い方も分かりやすかった。生徒の活動の写真をもっと載せてほしい。
- ・コロナの感染防止対策をしっかり行ってほしい。学校ではクラスター発生の心配がある。また、これからの時期は熱中症対策にも注意してほしい。
- ・「師弟和熟」の看板をフェンスに設置してほしい。

(7) その他

特になし

(8) 閉会